

## 令和7年度タウンミーティング懇談録（市役所）

日時：令和8年1月14日（水） 18:30～20:00

場所：つくば市役所コミュニティ棟1階会議室1・2

参加者：市長 ほか 参加者 48名

### <懇談録>

#### ○参加者1

お仕事お疲れ様です。参加者1です。よろしくお願ひいたします。ちょっと仕事で帰ってしまうので先に進めさせていただきたいと思います。市長も御存知だと思いますが、毎年、もう8年目になりますかね。妻木金田線の開通は、どのようなロードマップになっているのか、時々私も市役所の都市計画道路整備推進課と都市計画課に聞くんですけど、何か道路のイメージ図は作るっていう話を聞いたんです。あれどうなってます？

#### ●市長

道路のイメージ作りました。道路のイメージ作ってですね、今日お持ちすればよかったですね、もう、去年の9月にその道路のイメージを、地元の皆さんの説明会でお示しをしました。そこで色々御意見いただいたので、それを修正して、また、地域とやりとりをこれからしていく予定です。やっぱり道路の線形を示すと、いろんな御意見が出るんですね、地域から。それを、じゃあどうやって進めていくかというような話ですけど、着実にこの数十年進まなかったものが、ついに道路の線形を地域に示せるところまで、今頑張っておりますので、はい。

#### ○参加者1

高市政権もガソリン暫定税率撤廃もやりましたので、つくば市もスピーディーにやっていただければと。

#### ●市長

暫定税率撤廃されて困るのはね、自治体なんですよ。代わりの財源用意されていないから、今のままだと減りっ放しになっちゃうんですよね。関係ない話ですけど。

#### ○参加者1

引き続き、可及的速やかに。

●市長

地域と丁寧な話をしながら、可及的速やかに、頑張りますので。

○参加者1

ありがとうございます。

●市長

ホームページに線形載せてないんですかね、まだね。

○参加者2

安食に住んでいます参加者2ですけども、今つくスマの話がありましたけれども、非常に便利だと思うんですけども、あれで全部できるわけではないんですよ。

●市長

おっしゃるとおりなんですよね。

○参加者2

いろんなサイトがいっぱいあって、何かやるために、それを調べなきゃならないというのはすごく不便だと思うので、つくスマで全てできるような計画ってのはないんですかね。自治体アプリっていうのを試しにつくば市で応援してるところを使ってるんですけども、それもちょっと自治体だけになってしまうので、全部が一つになれば非常に使いやすいかなと。

●市長

そうですね。ありがとうございます。おっしゃるとおりでして、ただ、結局、全部を一つにすると、なんかとんでもないコストがかかっちゃうので、それであれば、他のサイトとか他のアプリと連携をさせることが今のところは、最もスピード感よく広げていけるかなという判断をしています。自治体によっては、例えばLINEを使って、一部の機能ができるようにしたりってやっていますけども、つくば市はできるだけいろんな機能をここにやろうとしてる方向性ではあります。だから、方向性としては今おっしゃってくださったような方向で、例えばインターネット投票とかもここでできたり、通報できたりするというのはあるので、行

政の機能を色々できるようにしていきたいとは思っているんですが、まだまだ使い勝手よくないですね。なので、鋭意努力中で、一つだけいい話として、またちょっと、新年度からこのつくスマの管理の仕方をちょっと変えていくので、もうちょっと柔軟に、いろんなものをアップデートできるようにしていけるんじゃないかなという期待感を持っていますので、こんなことができるといいんじゃないかという御提案などありましたら是非、今後もいただければありがたいです。ありがとうございます。皆さんコンパクトな質問に御協力ありがとうございます。

○参加者 3

参加者 3 と申します。やはり自治会として一番心配なのは震災時とかの情報とかになると思うんですけども、一番大切なのは水とか電気とかのインフラですけど、次に必要なのが情報だと思うんですね。私たちの住む所は、つくば市の都会のほうではなく、ちょっと筑波山寄りの田舎のほうになります。ですので、情報というのが非常に重要になってきます。是非お願いしたいのがですね、各自治会館などに Wi-Fi を設置するとかですね、まあ電気は来なくても自家発電が各自治会にはあると思うので、自家発電をすれば電気は何とかなる。ただ、情報はどうにもならないということで、Wi-Fi を自治会館などに設置していただければ、そこに住む自治会員の方、市民の方たちのキャリアが使えなくなったとしても、情報は得ることができると思いますので、その辺を市長にお願いしたいなと思って参りました。

●市長

実はですね、まさにそういうふうに使っていただきたくて、自治会の皆さん向けに Wi-Fi の設置の補助金というのを新たに、3年前から用意をさせていただいております。最大半額の補助だと思いますけれども、ですので是非それを御活用いただけるととてもいいんじゃないかなと。

○参加者 3

それはあの、月の払いとかも？

●市長

いや、月はですね、皆さんに払っていただく形ですね。ちょっと運営費はかかっちゃいます。もう一つ良い話はですね、そうは言っても Wi-Fi も使えない、高齢者の皆さんでスマホとか、つくスマとかでも別に防災情報あってもという皆

さんがいらっしやいまして、これも新しいサービスをはじめまして、事前に電話番号を登録していただくと、災害情報などをその電話に自動メッセージで掛けるというサービスを12月から、まさに最近始めたんです。そうすると、御自宅の電話がつながってれば、高齢者の方でも「〇〇が発生しました」と、「あなたの避難場所はここです。」みたいな、どこまでの精度で言えるかというのはこれからも運用しながらですけども。そんなサービスなんかも始めましたので。区会の回覧でそれも多分今頃周知をしているタイミングじゃないかと思しますので、それも是非、地域の特に高齢の方なんかに使っていただければと思いますので、ちょっとまずWi-Fiの補助金なども見ていただければなど。本当はね、運用の補助がね。

#### ○参加者4

はい。いつも本当にありがとうございます。自分やっぱりちょっと考えてるあれなんですけど、感謝マンっていう制度、ちょっとこう、検討いただけたりしないかなっていうのがありましてですね。なんか基本的にみんな今、お金を稼いで生きていくみたいなのがベースになってると思うんですけど、なんか、例えば空いてるところとか、家と、あとちょっと携帯代と、その辺を担保するから、基本的に自給自足的な暮らしを、目指してくれみたいな。何かそういう、何かこう、何ていうんですかね、何かそういう自給自足的な暮らしを推進するような制度みたいなのがあると、結構面白いのかなと思ったりするんですけども。

#### ●市長

はい、ありがとうございます。いつもね、感謝と愛とそういう話をされていて、とても個人的には共感するんですけども。そうですね、自給自足の生活を、市で促すっていうのはあれかもしれませんが、例えば、クラファンとかやってみるとかかっていかがですかね。当然それもお金にはなっちゃうんですけども、なんかそういう形で、その最低限の保障だけあれば、人助けをして生きていくっていうことですよ。ちょっと今日は時間がないのであまり踏み込んだ話ができませんけれども、何か動かれるのを応援するようなことができたらいいなとちょっと思います。クラファンなんかいいんじゃないかなって最近ちょっと思ってますが、是非また改めてゆっくりお話をしましょう。ごめんなさい今日短くて。

#### ○参加者4

いつもありがとうございます。

○参加者 5

中山地区から来た参加者 5 と申します。市長の御意見をお伺いしたいんですけども、初めて参加ですので、今まで出た質問と重複したら申し訳ないです。

●市長

もう全然大丈夫です。それは全然大丈夫。

○参加者 5

市内の開発についてなんですけれども、市長も様々なお考えがあって、いろんな施設を作ったりとかが進んでると思うんですけども、どう考えても物流倉庫とか、宅地開発などで、すごく大きい建物とか施設がどんどんできて、逆に市長が言っていたその森林、緑のシフトとか、森林を保っていくみたいなそういうものと逆行してはいないのかなというところで、何か、多分恐らくつくば市、今日本で一番環境破壊に加担してるんじゃないのかなって思えるぐらい、あちこち緑を伐採して環境破壊をしてるんじゃないかなってというのがちょっと私、考えているものがありましてお伺いしたいのと、その環境破壊にちょっと繋がってですね、ごみの分別なんかも、何か曖昧じゃないですか、つくば市結構。そんなに強く分別して欲しいわけじゃないんですけども、明らかに、もう、いい加減に捨てていく人も多いし、プラスチックごみ、ペットボトルごみを、明らかにお構いなしで捨ててく人たちがどんどん増えていっているんで、そういった環境面の環境改善っていうか、そういったところにどのようなお考えを持っているのかお伺いさせていただきます。

●市長

ありがとうございます。環境と開発のいわゆる地域経済開発と呼ばれるものについて、すごく大事なことはゾーニングだと思ってるんですね。一つはゾーニング。どのエリアであれば、開発はして、許容するというかですね、別に積極的に、何も切らなくていいんですけど、ただやっぱりつくばの地理的な特性とか、持続可能性を考えたら、やっぱりある程度の働ける場所とか、税収を生み出す場所というのを作っていく必要は、これは市長として考えれば当然あります。だからといって、今お話されたように、何でもかんでも切っていいわけじゃないし、開発をしていいわけじゃない。さらに言うと、特に貴重な動植物があるようなところや、希少な生態系があるところというのは、これしっかり守らなくちゃいけないという風に思っています。ですので、洞峰公園然りですね、他のいろんな開発然り、かなりその生態系の調査とか、生物多様性とかには、力を入れて今取り

組んでいますし、守れるものはちゃんと守ろうという方針です。一方で、民間が開発している倉庫が全部だめかと言われれば、私はそれはそうではないと思っていますし、例えば、データセンターというものも今計画されてまして、これ環境負荷の面では、確かに高い環境負荷をかけるんですけれども、でも、これが大きく税収を生み出せば、さっき言ったような緑の仕事の方に投資をしていくことができるので、どうしても経営を考えれば、財源をつくるという意味で、そこを本当に今のままでいったら、環境は守れるかもしれないけども、でも、もっと積極的に守るということは、できないんじゃないかなと思っています。ネイチャーポジティブという考え方を強く持っていて、これ正にイギリスで、私来月行ってくるんですけれども、何か新しい開発をする際は、総体としてその緑を、その前よりも10%増やすようなことを条件にしてるような、バーミンガムというところで、これ世界でも最先端でやってるんで、ちょっとそこを見てきていてどういうことができるかなと思って、学んでいきたいと思っています。ですので、さっきの問いに対してお答えをすれば、ゾーニングをしながら、開発を否定するものはないけれども、開発をしたとしても何とかより良い形の自然を作っていくような取組を、今度もっと増やしていきたいというのが1点目で、分別はかなり細かくやってるつもりですが、もちろんそれを守らない、守ってくれない方というのは、まだまだいらっしゃるっていうのはあります。なので、啓発をもっとしなくちゃいけないですし、プラごみもそういう思いで、最初週に、月2回だったんですけれども月4回にしてですね、たくさんやっているようにしたり、ダンボールコンポストやっごみを減らしていくような計画をしたりというのをやりながら、少しでもペットボトルでも何でもクシャクシャと一緒にしちゃうような方が「あ、そういうことやったらまずいな」と思えるような啓発は続けていきたいと思っています。多分、目指してる方向はすごく同じだなと思います。ただ見え方が、確かにね、物流倉庫が増えてますので、そう見えてしまうのは申し訳ないですけども、自然はやっぱり私にとってもすごく大事なもののなのでそこはこだわっていききたいと思っています。頑張ります。

#### ○参加者6

東新井の参加者6です。よろしくお願ひします。市長の最初の冒頭のマニフェスト、大変共感してまして、是非進めていただきたいと。その上で、やはりこのマニフェストを進めていこうとしたときに、何か私は、一つボトルネックあるなと思うのが、やっぱり人間のメンタルモデルだなと思うところがあって、いわゆるその二元論で、どうしても人間捉えてしまいがち。そうすると、持続可能性であったり、みんなが幸せになるとか、誰か不幸せ、踏み台ではなくて、そこを分

けて考える。ここを何とか乗り越えないと、これ日本全体、世界全体そうなんです、つくばは、その二元論を超える、こういったコレクティブインパクトのような形が、何か生み出されてくると、大変すばらしいな、そんなふうに思いました。

#### ●市長

はい、ありがとうございます。私が今関心を持っている概念がですね、アダム・カヘンさんという人が言った、「敵との対話」ということで、今世界中で本当に分断が起きてますし、みんなが自分の正義だけを主張してるんですけども、やっぱりそれって結局、相手も全く同じことを思っていて、お互いに憎しみ合っちゃってるんですよ。でも、そういう不満や何かが渦巻いて、何か過激な勢力が生まれたりしてしまうわけですから、そこにちゃんと我々向き合わなくちゃいけないと思います。だから、自分と考えが違う人でも、どう対話をしていくかとか、どう包容していくかってのはすごい大事なことなんだろうと思います。ありがとうございます。頑張ります。

#### ○参加者 7

現在吾妻に住んでますけども、私が70年代に並木に来たときにですが、ホテルがたくさんいたんですね。それで、そのあと、空中散布でどんどん昆虫が死んでしまって、それから花室川のところですね、いよいよあそこら辺が一斉に耕作放棄になりそうですよね。それであそこには是非その生物の、特に昆虫とですね、その関連の植物が必ず必要ですから、そういうところの公園のようなものを作っていただきたいと。かなり広いところが、水田が放棄されて、それがもともと、藪になっているところがたくさんありますので、是非現地を見ていただいて、専門家がたくさんいますので、つくばには。タダでやってもらえると思いますので。よろしくをお願いします。

#### ●市長

私も並木で育ちましたので、本当に当時はね、なんか、飛行機でアナウンスがあつて、回覧が回ってきて、散布するから外出するな、みたいな時代もありましたし、花室川では、ほんとに私小さい頃入って遊んでたんですけども、もう今、見る影もないですよ。すごくそれは私も見てショックを受けています。なので、そこでいきなり公園を作れるかっていうとちょっとまたそれはあれなんですけど、おっしゃるとおり、ちょっと専門家の方、結局どういう生態系を守るべきかっていうの、これも一種のゾーニングだと思っていますので、そういうことを、

今、実は生物多様性のつくばのアドバイザーの皆さんがいらっしやって、その皆さん、その専門家の皆さんと色々相談してるので、その専門家との協議の場で、「花室川周辺ってどうなんでしょうね。」みたいな投げ掛けをちょっとしてみたいと思います。

○参加者 7

一応各論の書いたものを持って来てますので後で差し上げます。よろしくお願いいいたします。

○参加者 8

こんばんは。先程お話のありました公立学校内のフリースクールについて、2点お願いがございます。市長さんが提案してくださったフリースクール、私たち、子供たちが安心して学べる場所を作る、居場所を作るということで、色々試行錯誤しながらやってまいりました。それで、その中で子供たちを見守っていて、強く感じることは、家庭の役割、家庭での言葉かけの大切さ、そういったところなんです。それで、それだけにその保護者の方は、すごく責任を感じられたり、なかなか自分の本音が吐けなかったりということがあると思うんです。なので、子供たちの居場所については、だんだん確保ができてきているので、保護者の方についても、よろしくお願いいたいということと、もう一つ、支援員が学級ごとに研修会をしておりますので、そこには是非市長さんも参加していただきたいという声がありますので、どうぞよろしくお願いいいたします。

●市長

二つ目から、ありがとうございます、本当に支援していただきまして。皆さんに支えられて本当にやれていますので。参加は何か、一緒に勉強をしたいとかって、それともそこで皆さんにこうメッセージをみたい、どのように？

○参加者 8

私たちの取組を聞いていただいたり、実際こんなふうなフリースクールが運営されているんだよってということを知っていただけると嬉しいです。

●市長

分かりました。是非、そうですね、ちょっとタイミングをよく秘書課と相談して、実は色々課題感を聞いているので、個別に支援してくださっている方々が、学校ごとにやっぱり色々違ってしまったりするのもあって、それもよくないよ

ねって話もしてはいるんですけれども。

それで、一つ目も本当に大事なところで、親御さん責任感じられてる方もいらっしゃるし、やっぱりまだ逆に言えば、何か突き放しちゃってる方もいらっしゃったりとか、いろんなケースが本当にあるんですけども、保護者の皆さんのピアカウンセリングのようなものも必要じゃないかなと思って、そういう保護者でみんな悩みを共有したりするグループができてもいいんじゃないかというのが一つと、もう一つそれに関連して、実は筑波大学の先生で、日本の精神医療の中でもそのオープンダイアログという手法を取り入れてとても活躍をされている方がいらっしゃって、この方が、この間つくばにクリニックをオープンされたので、早速ちょっと行って先生からお話を伺ってきたんですけども、そこで保護者とどういうふうなことをやっていくかみたいなことを相談してきてたりして、まずは職員がその先生の手法を学んで、そこから何か保護者の団体との連携とかができたらいいな、なんてちょっと今考えてるところですので、そういうものを一つ一つ。

#### ○参加者 8

あとすいません。この前、高濱正伸先生の講演会があって、ああいう機会もとても良かったなと思いました。

#### ●市長

ありがとうございます。高濱さんとも仲良くやらせてもらっていますので。頑張ります。

#### ○参加者 9

はじめまして、初めて参加させていただきます。研究学園に住んでいます。自分です、年をだんだんにとってきて、車を運転できなくなる日がいつか来るだろうなっていうのは年齢ごとに感じてるんですけど、先ほど冒頭に15分云々と言った話があったんで、非常にありがたい話である一方で、私研究学園なんで、比較的便利なところに住んでると思いつつもやっぱりこの場所は車がないとどうしようもない場所なので、そのあたりに関して、色々お考えだと思うんですけども、是非前に進めていただきたいな、なんていうのが一つあって。そこもあくまでもお願いなんですけど、質問はですね、TXの延伸に関して、あたかも県民の総意であるかがごとく進んでるような印象があるんですが、つくば市の立場なり、市長さんの立場が全く見えないと思って、ちょっとその辺の御意見を聞かせていただきたいなと思っています。

●市長

交通施策はしっかりですね、いろんなモビリティを使って、できるだけ不便なく、車がなくても生活できる街を目指して今色々やっていますので、引き続き頑張ります。TXの延伸についてはですね、私の立場、かなり明確にいつもして、つくば市が優先すべきは東京方面の延伸だと。県内延伸と東京への延伸は全くステージが違う。答申で載っているものと載っていないものをというようなことを考えれば、それはまだ同じ議論の俎上にのっていないということ、常々申し上げておりますので、そこから読み取っていただければなと思いますが、つまりそういうことでございます。県民の総意でもあんまりないような気はしていますね、県内の延伸もね。ちなみにですね、ちょっと余計なことですけども、つくばエクスプレスを、筑波山まで延伸したら何が起こるかという試算をかつてしたことがあってですね、鉄道って設置してから30年から35年で黒字化しなくちゃいけないんですね、要は整備費と運賃で。それを考えて、つくばエクスプレスをつくば駅から筑波山まで延伸したら1日、何人の人がその分乗らなくちゃいけないかという試算をしたんですね。今、大体バスが、つくば駅から筑波山で毎日4,000人ぐらいなんです。それが、どうしたらいいかっていうと、黒字にするためにはですね、つくばエクスプレス通したら、毎日12万人乗らなくちゃいけない。30倍とかなんです。無理ですよ。だから、そういうことを考えれば、どう考えても整備コストが合わないの、コストが合わなければ、国が認可しません。

○参加者10

はじめまして、谷田部地区、参加者10と申します。高齢者の立場から一つ提案があって、あと問題提起ですね。提案はですね、回覧に毎年その農家との繋がり、その農家に行ってそこで働いて、かなり回数が多くて、決まったスケジュールになると。農家の立場から分かるんですね、やっぱり農家にとっても利点がある。ですが、高齢者はそんなに力がないし、あるいは毎回行かれないかもしれない。そうすると、もう一つ見学って言いましょうか、そういう枠を作って各農家によって例えば2、3人ぐらい、もうちょっと自由に農繁期の中で3回行けるような柔軟な制度があれば、市街地と農家の繋がり、それから高齢者と、より若い農村地帯にいる人たちとの繋がりができる。まあ高齢者の立場からの提案です。あと、タクシー券の話が出ましたけれども、実際につくばがもう免許返納していく、他に行ったりして結局月に1回ぐらいで終わっちゃうんですよ、1年間で計算すると。ですから、もちろん財政的な問題もあるかと思うんですが、何か

小型バスの路線を作るんだとか、何か対策がないかっていう、要するに現在の制度では、申し訳ないんですが不十分と感じてます。以上です。

●市長

農業サポーターのもうちょっとソフト版を作った方がいいというのが一つ目の御提案で、実は農家の皆さん、農業者の皆さんとも結構私意見交換をしてるんですけども、でもやっぱり農業者の皆さんはもうとにかく、本当のところは明日来て欲しいみたいな、そういう世界だそうなんですよね。だから、そうすると、やっぱりなかなか難しいので、でも、じゃあ何かそういうボランティアのグループの仕組みとか作ったらいいんじゃないですかみたいな話を、この間も聞いたんで、それ近いかもしれません。行ける時に行ける人が、それに行くみたいな。そのサポーターのバックみたいなものがあるって、みたいなことはちょっとあり得るような気はして考えてみたい、正にそういうニーズかなと思いますので。二つ目ですね、タクシー券はですね、本当におっしゃるとおりです。実は、来年度予算で何とか増やせないかなと思ったんですけど、来年本当に物価高や人件費高で、来年の財政、本当に大変なのでちょっと厳しいんですね。ただ、そもそも色々つくタクとかもコストがかかっているんで、もう少し長期的な視点で見直すものを見直して、タクシー券をどう増やしていこうかなというのは、考えてるところです。自由に移動できるようにまだなっていないのはよく分かっておりますので、何とか頑張りたいと思います。

○参加者 10

ありがとうございます。

○参加者 11

前回にタクシー券を使うのは3枚と、それが今回5枚になると。だから今言ったように月に1回ないし2か月に1回になるかもしれないんですけども、それでいったらもうちょっとね、予算がないとかっていうのはちょっともう、あれかなあと思うんですが、私はタクシー券もそうですけども、自転車のアシスト自転車を購入しました。それで今日も谷田部地区から自転車で来たんですけども、それと同時にタクシー券も使わせてもらってます。それからの次のお願いなんですけども、バスの割引券じゃなくて、無料ができたらいいなあと思ひまして。歩いたり自転車を使ったり、時間がないときにはバスを使っていけるかもしれないんですけども、今言ったように免許を返納する手助けになるかなと思ひまして。それでちょっと今日は、お礼とお願いに来ました。よろしくお願ひいたしま

す。

●市長

使っていただいてとても嬉しいです。正にそういうふうに使っていただきたいと思っているんですが、バスはですね、実は本当に結構既にすごい予算を使っているんで、本来は運賃からもっと経費をカバーしなくてはいけないんですね。だけどそれがまだまだ賄えていない状況なので、いきなり無料っていうのはなかなか大変なんですけど、高齢者の割引が今のところは残念ながら限界ではあるんですけど、お声いただいたことをちゃんと頭に入れておいてですね、もっと財政が潤沢になった際にはですね、高齢者の公共交通は無料にしたいなと思いますし、実際私が行ったヨーロッパの都市なんかで結構思い切って、もう全員無料みたいなことをやって、それはめちゃくちゃ裕福な自治体だからできることなんですけど。こういうのがあれば本当に皆どうだろうなというのは感じてきたところもあるので、ありがとうございます。

○参加者 11

それで、東京都内は無料バスと、都営地下鉄が無料なんですね。

●市長

これ言われるとしんどいんですよ。

○参加者 11

私が東京から茨城に戻ってきましたんで。何回もお願いしますんで、よろしく願いいたします。

●市長

分かりました。東京都の財政と比べられちゃうとね、もうたまらないんですけど。頑張ります。

○参加者 12

バスケットの練習をいつ見に来ますか。

●市長

バスケットボールクラブの練習ね。膝を治したら行くって約束したと思うんだけど、ちゃんと約束守るために、僕毎日筋トレしててですね、片足でこうやっ

てね、こういうの（市長が片足スクワットを披露）を結構やったり。最初できなかつたんだよ、来てくれた頃は。でもほら、今こうやってき、頑張ってるの分かるでしょ。これね、右足がほんと痛くてできなかつたんだけど、バスケットボールクラブの練習に行くために今膝を治してる最中ですので、あとね、多分この様子だと、あと2ヶ月ぐらいしたら、意外といけるんじゃないかなと。半月版損傷っていうのをやっちゃってたんで。でもね、頑張ってるからさ、ちょっと待っててくれる？いい？ちょっと秘書課と相談するけど、行けるときね。早ければ、3月か、4月ぐらいかな。5月に大会があるんだよね、確かね。ちょっと頑張るから。頑張るよ。約束したからね。絶対行くよ。ちょっと待ってね、まだちょっと痛いんだ。今もちょっと痛かつたんだ実は。

○参加者 12

ありがとうございます。

●市長

はい、ありがとう。

○参加者 13

知的障害のある青年たちのスポーツクラブです。今、市内中学校で夜活動、練習をしているんですけれども、今年4月から体育館が20時からしか使えない。

●市長

今年の4月から？

○参加者 13

4月から。部活のあれがあるからっていうので、19時から活動だったのが20時からになっちゃったんですね。で、さっきの子とかもそうだし、うち年長さんからいるんです。年長さん、小学生、中学生、あと、水戸、稲敷、日立から集まっています。ちっちゃい子たちっていうのは21時くらいまでしかいられない。来年度20時からだと1時間しか練習ができないです。ていうことで、4からはうち2チームに分けて、今も2チームなんですけど完全に2チームに分けて活動しようとしています。で、まあ体育館なんですけど、なかなか取れません。その中で、つくば市民が10名必要なんです、1チーム。合わせれば余裕でいるんですけど、分けてしまったらいないんです。なんでかっていうと知的障害って人口の1%いないんですよ。で、それを10人集めるってまあまあ大変なんです。

●市長

それは確かにちょっとその運用があれですね、なるほど。

○参加者 13

なので、そこを緩めてほしい。

●市長

ちょっときちんと検討します。それはおっしゃるとおり、かなり制度として現状に合わないし、別にそれは皆さんだけじゃなくて確かに知的障害のグループが活動しようと思ったら、なかなか自由に集められないというのはそれはそのとおりです。

○参加者 13

2チーム合わせればいるんですけど、そうすると10人いないと申し込みできないので、保護者達が入ってチームとしてやっていくしかない。でもそこを緩めて欲しいっていうのと、やっぱ19時から使えない。こういう子たち部活もないんです。特別支援学校って部活がもうほとんど機能していないので。こういう場でしか運動が出来ないのに、20時からというのはとてもしんどいです。

●市長

なんで20時からっていうのは。

○参加者 13

わかんないです。なんかその部活が変わるじゃないですか。あれなのか、19時からもう使えない状況で、来年度の申込はしたんですけど、20時から22時という状況になっています。

●市長

ちょっとそっちも確認します。まあ多分学校の何かの事情なんだとは思いますが、確認して、それからその要件も、今の部分を言われれば確かに緩和をするべき話ではないかなと今思っていますので、法務とかとも相談して、どういう書きぶりができるかってちょっと前向きにしっかりやりたいと思います。

○参加者 13

私たちの活動、このまま続けていきたいので、練習も待っていますし、大会もよ

ろしくお願いします。

○参加者 14

こんにちは。研究学園に住んでる参加者 14 です。高校 2 年生です。今保護犬の暮らし、施設で暮らす保護犬の環境について探求してるのですが、水戸市は中核市で、市に 1 つ、愛護センターを設けていて、見学に行くと結構すごい綺麗で小規模で整えられている環境だったんですが、つくば市も中核市にすることによって、そのセンターを構えて、動物福祉への面から見て、発展させていけると思うのですが中核市にする、なる予定はあるのかっていうのと、また、つくば市が動物福祉について何かやっていることっていうのはあるのかっていうのを聞きしたいです。

●市長

はい。ありがとうございます。素晴らしいですね動物福祉。中核市について言うと、つくば市は検討はしたんですが、中核市への移行はしないことにしています。なぜかという、中核市になると、保健所設置したり正にその、福祉、動物の福祉のセンターであったり、いろんなものを、児童相談所とか持つことになるんですけども、つくば市は、不交付団体という国からあんまり税金が入ってこない自治体なんですね。財政がよいとされているので。これは非常に色々制度として矛盾があるんですけど、そうすると、例えば水戸のような、交付団体と呼ばれる国からたくさん、財政状況でお金が入ってくる。要するに、つくばほど豊かでないがゆえに、そうすると、保健所とか、この動物の福祉のセンターとかを作るのに、国のお金がそれに充てられるんです。けどつくば市がもしやるとなると、全部つくば市が自腹で払わなくちゃいけないんだよね。そうするともう一つのあれだけでも、もうものすごい金額が出ていくので、現実的ではないという状況があるんですが、それは当然、子供たちのことも大事だし、保健も大事だし、動物福祉も大事なので、動物福祉に関しては、今地域団体と連携をして、いろんな話合いをしています。例えば、このすぐ裏にある、普段、市長の車とかが停まっている場所、屋根付きのところを開放して、そこで譲渡会をやってもらったりしています。それから、団体と連携してどういう設備が支援が必要かというのを聞いたりして、この間も御要望を受けたので、捕獲用のね、ちょっとしたわなを、もうちょっと団体が使いやすいようなものを整備したりして、というのをやっています。中核市になるよりも、そういうところにちゃんとお金を使っていけるようにしたいなということで取り組んでいます。

○参加者 14

ありがとうございます。

○参加者 15

いつもの参加者 15 です。

●市長

はい。コンパクトをお願いします。

○参加者 15

今、この4月からの計画を立てていてそれでこの間パブコメもあったと思うんですが、その計画の原案を見ると、やっぱり欠けてるのは何かというと、市民に何を求めているか、量的な情報がない。そこがすごく大きな問題だと思います。その点をちょっと見て、市長最後判を押すかどうか、そのところをちゃんとお伺いしたいなと思って来ました。

●市長

もちろんきちんと、御意見も含めて見て、はい。

○参加者 15

一応パブコメはしっかり書いたので。

●市長

分かりました。ちゃんとお名前前で追っかけたいと思っていますので。はい。

○参加者 15

よろしく願いいたします。

○参加者 16

こちらですね、参加者 16、参加者 17 です。

●市長

はい。いつもありがとうございます。

○参加者 16

実はですね、昨年ね、大穂中学校の中学生の通学道路についてですね、青パト巡回中でありまして、それで一部通学道路がね、つくば市今鹿島地区っていうんですけど、まだ未設置なんですよ。それで通学時大変ね、危険があるためにね、関係区長さんを通しまして、市長さんに要望書を提出してあります。さらに市長さんへのたよりっていうのがありますよね。それでもう提出させていただいてあるんですけど、答えもいただいて、前向きな答えもね、いただいたんですけど、今回こういうタウンミーティングっていうことで、参加させてもらったことで、色々こういう予算もあると思いますけど早急をお願いしたいと思って。あと御多忙中ですけどね、是非現地の状況もね、見ていただければと思って参りました。よろしく願いいたします。

●市長

はい。いつも活動ありがとうございます。もう本当に地域の安全を守ってくださって。通学路に関しては、実は整備の要望ってめちゃくちゃたくさん来てるんですけども、通学路っていうのは、まずその時点ですごく優先順位は上に来ますので、さらにその中で、でもそれでもたくさん要望をいただいている中で、危険度とか、緊急度から判断をして、整備していきますが、色々報告を受けていますので、ちょっとなかなかすぐはあれなんですけれども、やらなくてはならないという場所というふうに認識してますので、ちょっとお時間いただきますが、進めていきたいと思っています。

○参加者 16

よろしく願いいたします。

○参加者 18

大穂地区から来ました参加者 18 と申します。洞峰公園を買われた際に

●市長

買ってないですよ。無料で。

○参加者 18

無料なんですけれども、コストと利用料の差が1億5,000万ぐらいみたいなんです。で、ちょっと、五十嵐さんは教育とか福祉とかとても期待しておりましたそのとおりなんですけど、まだまだ、福祉や教育足りない部分、たくさんある

ので、私はちょっと1億5,000万のランニングコストだったら、ちょっとよくその近隣住民と話し合っ、て、ちょっとつくば市には、過分な試算だと思ったんですね。洞峰公園は、人間のための公園で、あまり生態系が豊かではないですよ。それだったら松見公園が一つあれば、もうつくば市民としては、もう自分の身丈に合った公園だなどと思っ、て、それよりもだったら、平地林ってたくさん自然の昔からの動物がいる山があるんですよ。そういうところが住宅になったり、だんだん、少なくなっ、て、本当は昔からの自然豊かな地域、平地林などを守っ、て欲しかったなと思っ、て、うんですね。

●市長

ありがとうございます。分かりました。ちょっとコストのことについては、どうやっ、てみんな縮減して、るかというのを今協議会で議論をして、るといっ、ことと、もう一つ洞峰公園は、ですね、やっ、ぱり生態系としてはとても貴重な場所だと思っ、て、ます。どういっ、う意味で貴重かといっ、うと、もちろん、希少な動植物があるといっ、うところも一つなっ、て、ますが、同時にそれが長年にわたっ、て記録がされ、て、るという意味でもとても希少な場所なっ、て、るんですね。1980年代とかから、ですね、当時の、今のURの前身の皆さんが開発をした頃、から、地域のボランティアとか専門家の皆さんがどういっ、うものがいっ、て、ここにはどういっ、うものが、なんていっ、う記録をされ、て、る、都市の中にある生態系の場所としては、実は本当に有数の場所ではないかと思っ、て、いますし、例えば、茨城県内に観測できる鳥は、180ぐらいいる、んですがそのうちの100ぐらいいが観測できるとか、ですね、これは受け売りです、けれども。そういっ、う風に、とても私は価値がある場所だし、それがゆえに、環境省からも、ですね、地域の団体の皆さんと今回連携をして、申請をして、今後も残していっ、くべき場所といっ、う、認定を受けたん、ですね。です、ので、国のお墨付きで、ここはとても希少な生態系があるよといっ、うようなことも含めて認めら、れているので、洞峰がただの公園ではないといっ、うことは、ちょっとお伝えでき、ればな、と思っ、て、いましたが、財政についてはしっ、かりと縮減をして、いけるよ、うにと思っ、て、おります。頑張ります。

○参加者 18

他の生態系、昔からの豊かな生態系がたくさん残っ、て、るところの、その保存の方を先にして、いただきたかっ、た、て、いうのがある、ので。

●市長

はい。おっ、しゃることはよく分かります。例えば、中根・金田台とかでもやっ、ぱりそういっ、う活動され、てる方もいらっ、しゃ、って、それはそれでとても大事な活

動だと思っていますので、そういう活動ももちろん応援しています。

○参加者 18

はい、よろしくお願いします。

○参加者 19

栃木県益子町からちょっと政治の勉強で。

●市長

あ、政治の勉強で。なりますか政治の勉強に。

○参加者 19

ああ、もちろんです。ざっくりした質問なのでざっくり答えていただければと思います。限られた予算内でいろんなことをし、いろんな要望があると思うんですけど、それらをどうやって優先順位付けたりどうやって予算配分していくかという指標ってのはどのようにお考えですか。

●市長

まずベースとなるのが、公約の部分と、それから市で作ってる総合計画のようなものがありますので、そういうものについては当然優先順位をつけます。それはなぜなら、それを精査する時点でもう優先順位がついてるからですね。ただ、それに載ってないものであったりしても、緊急的にやっぱりこういうものが必要だよねとか、例えばエアコンについてもある程度は書いてましたけれども、いつでも、もうこれだけ気象状況が変化していくとなれば、もう緊急的にやらなきゃいけない。そこはもう、政治の判断、政治家として何を優先するかということ意識して取り組んでいます。私の場合で言うとやっぱり教育であったり福祉であったりというのは、比較的通常よりは優先順位が高まるだろうというのは、思っています。はい、よろしいでしょうか。

○参加者 20

みどりのから参りました参加者 20 と申します。今つくば市の子供の人口が嬉しいことにどんどん増え、増加していると思うんですけども、私も子供が小学生で、県立高校の定員の不足について、その不安から、やっぱり市外通学や中学受験も今考えてるんですけども、今後の具体策や見通しなど、またあるのかど

うかお伺いしたいのと、もう1点、先ほど学校の放課後スクール、アフタースクールの事業をちょっと今考えてるってということなんですけれども、何年までに何か、全ての学校とかそういった見通しがあれば教えていただけたらと思います。

●市長

はい、ありがとうございます。県立高校問題はですね、本当に頭が痛いというのが正直なところです。県にはもちろん、いろんな数字を示しながら、増やし、つくって欲しいということは要望してるんですが、一応県の計画とか県のスタンスとしては、足りているという結論なんですね。足りていないんですけれども、だから、それを数字で示したり、今も遠距離通学の補助金をつくば市は出していますので、そういったデータを基に、いかに1時間以上かかっている子供がこれぐらいいるかみたいな数字を示したりしています。ただ、県は結局、子供が減ってる箇所もあるんだからみたいな話になっていて、なかなか大変です。大変なので、市が提案したのは、竹園高校、例えばですよ、竹園高校を2クラス、まず1学年ごと増やして、それだけでも定員が80人増えるわけですけど、そのお金は市で持ちますよというような提案もしてるんですけども、なかなかそれもですね、いえ、高校は足りているという状況なので、なかなか難しい状況があります。ただ、じゃあ市立でですね、学校をつくったらいいんじゃないという御提案もいただくんですが、それはさっき申し上げたようにちょっとこれだけ財政が大変で、つくば市はもう小学校と中学校だけで、子供が増えてると言いましたけど3年で6校を作ってるんですね。ここから先がさらに衝撃なんですけども、今さくら小学校というものを、中根・金田台地区につくっているんですが、この建設費が今58億円なんです。小学校1校で。3年前、研究学園小・中学校を作った時は、小学校と中学校合わせて59億円なんです。分かりますかね。小中2校合わせた金額と今小学校1校が同じ金額、これぐらい物価上がっちゃってるんですよ。大変なことになっていて、これでさらに市立ってなると先生たちも自分たちで手配しなくちゃいけないですから、なかなか残念ながら厳しいので、粘り強く県にやると。でも、それもなかなかすぐはいかないから、遠距離通学の負担をせめても減らしたいと思って、今、年間3万円というですね、通学の補助を、かなりこれも予算をかけているんですけど、出させていただいているというような状況があります。

○参加者 20

すみません、年間3万円とおっしゃいましたか。

●市長

年間3万円のバス通学の補助。もちろん焼け石に水だと言われることもよくあります。バスで通っていると21万かかるだとかね、いろいろ言われますので。

○参加者 20

電車の補助ってありますか。

●市長

通学の補助なのでどういう形でも、自転車でも大丈夫です。それでアフタースクールについては、新しい学校なので、色々設計しやすいのでこのさくら小学校でやるんですが、ちょっと、まずこの今やってる2か所をちゃんと検証しなくちゃいけないと思ってます。検証した上で、全部に広げたほうがいいのか、それとも、実はもっと別な形の方が広げやすいのかなっていうのを、しっかり検証をするチームをもうすぐ立ち上げてやっていく予定です。はい、よろしいでしょうか。すみません、高校は本当に御心配お掛けします。

○参加者 20

はい、ありがとうございます。

○参加者 21

千現から来ました参加者21です。昨年の4月に生物多様性つくば戦略というのが作られてリリースされたっていうので、あれはざっくりとその方向性を決めたというものでして、実際それに沿って今後それをランして行って、良い方向に向けていくっていう段階にあると思うんですが、やっぱりその時にですね、いろんな取り決め、ルールとか、その考え方をまとめていく、或いはその実施していくに当たって、協議会とかいろんなものができると思うんですが、その時には是非とも、その地域で保全をやっている団体ですね、その意見というものを、非常に早い段階から入れていただきたいなというふうに思います。これ質問とかお願いです。

●市長

分かりました。もう、絶対必要なことだと思いますので、今、その専門家チームのような協議会、何て名前だったかな、ちょっと正式名称忘れちゃったけれども、で、相談しながら、個別に進んでいくときは、もう当然いろんな活動をね、既に素晴らしい活動がたくさんありますので、それを皆さんと一緒にやっていき

いと思っています。是非よろしく申し上げます。

○参加者 22

同じく千現の参加者 22 です。要望提案になるんですけども、最初に市長がお示しくださったところのグリーン・シフトと市民協働に関わる場所なんですけれども、今も出ました生物多様性の戦略の中の基本方針で、みんなで取り組むつくば生物多様性という戦略あるんですね。みんなといっても実際、私もちょっと最近団体やっているんですけど、限られているんです。で、それで一つ提案なんですけど、この昨年暮れに実験植物園でつくばの野生蘭という植物展がやられまして、で、そこに話題になったトピックスなんですけど、つくばってもちろん皆さんさつきから緑大切とか、周辺部のグリーンをとかいう話をしていたんですけど、そういうもともと街も、そういう里山里地が街になったので、実は私たちは市街地を中心に当然やっているんですけど、すごく街中にキンランっていうこれあの生物多様性の指標くらいにありとあらゆるところに出てくる名前なんですけど、それが分布してるっていうのがその戦略の調査でも出てますし、実際活動しているとなぜかうちの団体に「私の家の近くに」、「道に」とか「公園に」とか、キンランがありますとか、それに類する野生蘭がありますので何とかしてくれっていう連絡が結構メールや電話が入るんです。で、行政とも取り組んで、可能な範囲で行政の枠組みの中でできる保全というのをちょっとずつやっていて、ある公園は小さい公園なんですけど、20 株くらいが 300 株まで増えたっていう場所がありまして、まあ今回環境省に認めてもらって、洞峰公園ではないんですけども。

●市長

もうちょっとコンパクトにして

○参加者 22

はい、それで提案としては「蘭のまち つくば」とかっていうキャンペーン出してもらって、通報してもらったら、刈らなければいいんです。造園業者さんが草刈りしなければ、蘭ってほっといても茎さえあればいくので、キャンペーンっていうのをやっていただけると身近にできるのでやっていただきたいなと思います。

●市長

ありがとうございます。この間、私も植物園で蘭展行ったんですけども、園

長からですね、色々説明してもらって、まずつくばの住民の活動がすごいと、本当に豊かな保護活動をしてると。そして何と言ってもつくばは本当に蘭だと。実験植物園にそもそも世界の蘭の品種のうちの何割かがあるみたいなですね、とてもアジアの最大の蘭の拠点だという話を実は以前から聞かされていて、先日の蘭展も本当素晴らしかったんですけども、まさにおっしゃってましたね、「蘭のまちいいんじゃないんですか。パンのまちの次は。」みたいなね。食べちゃいそうですけど。まあそういうこともあってというかですね、今度実験植物園と連携協定を結びますので、実は協定式で蘭展で合わせてやるはずだったのに、私がインフルエンザにかかってしまってですね、協定式延期になったんですよ。だから、植物園とも相談します。「そういうチラシとかどうでしょうね」みたいな話を。それで、今ちょうどつくスマでやっていますので、よかったら蘭の写真などをどんどん上げていただけると蘭のまちの認知度が広がるでしょうから。ありがとうございます。

○参加者 22

具体的な保全についても上げてほしい。写真だけじゃなく。

●市長

はい、もちろんです。

○参加者 23

下広岡から来た参加者 23 というものです。ちょっと馴染みのないスポーツなので説明させていただきますけれども、ブラインドテニスっていう視覚障害者のテニスがあるんですね、スポンジのボールの中に鈴入れてバウンドしたときの音を聞いてやるというやつですね。それを、2001 年から女子テニス連盟の茨城支部の人の全面的協力で「ブラインドテニス茨城オープン」というのが始まったわけですね。それで、2011 年からはですね、洞峰公園体育館を使って毎年開催していました。選手は全国のトップ選手 4~50 人来ます。で、それをサポートするのが、女子テニス連盟の人が 7~80 人、それから筑波大学のテニス部の人 16 名かな。ということで選手よりも多くの人で支えて十何年続いている催しがあったんですけども、この洞峰公園が県からつくばになったということで、予約が 1 か月前でないとできないということなんですね。で、1 か月じゃ全国規模の大会は無理です。去年はやむを得ず取手の体育館をお借りしたということなんですね。しかも減免してくれたそうで。取手でできてつくばでできないのおかしいなという感じなんですけれども。とにかく健常者ならば会場が変わ

ってもどこでもできると思うんですけども、とにかく盲導犬や白杖、白い杖を頼りに集まってくれる選手たちがほとんどですので、慣れたところでやるのが一番ですね。そこで、洞峰だともう十数年やっていますので、どこに何があるのかというのは分かるので、何とかしてですね、また今年からね、洞峰でやってもらえないかなというお願いなんですけどね。

#### ●市長

ありがとうございます。すみません、存じ上げずに申し訳なかったです。やっぱりいろんな個別事情っていうのがありますので、今のようなものというのは、本当はもう少し柔軟にどんなことができるかを考えなくちゃいけないので、杓子定規的に断らないで欲しかったなというのが、まあ、まだまだ色々課題があるなという感じなんですけれども。ちょっと整理しないといけないので、じゃあ何ならいいんだというのがああるんですけども、やっぱりこれまでその長い歴史の中でやってきてくださってきているものというのは、少しね、そこに対する敬意とか配慮というものは必要だろうと。ちょっと状況を確認して、後でまた御連絡を差し上げたいと思いますので。

#### ○参加者 24

吾妻からまいりました参加者 24 と申します。五十嵐市長には不登校支援でたくさん予算も使っていただき、支援をしていただき、日頃から大変感謝をしております。今3年目になるんですけども、私自身は3年目になるんですけども、フリースクールでスタッフさせていただいております。予算が大きいところ、すごい小さい話をお願い申し上げるのは恐縮なのですが、ただ、他の団体のことも関わるので、今日はお願いなんですけれども、だいぶ予算も限られる中、つくば市に補助していただいておりますが、それでも限られた資源の中で環境を整えております。ただ、なにぶん小さい団体ばかりですので、例えば音楽室だったり、理科室だったり、家庭科室だったり、そういう特別なことをやるための環境っていうのはなかなか整わないわけですね。それで、地域交流センターに度々お世話になっております。多分追いついていないということだと思うのですが、地域交流センター利用に当たっては利用料がかかります。ただ、免除がだいぶ効く団体がたくさんあって、もう20団体くらい、例えばつくばのもちろん公立の学校とかPTAもそうですし、例えば65歳以上の会員が半分以上だったらもうすでに減免されるということがあります。ただ、この一覧の中にフリースクールは入ってこないんですね。こちらの地域支援課にも確認したんですけども、どこにも引っかからなくて、話を聞いていただいたんですけども、あまり前向きな、なんかまあ「検

討します」くらいで終わってしまい、学び推進課にも行ったんですけども、そちらでもあまり前向きな御意見いただかず、ただ市長にも改めて漏れてる感じのことをちょっとお伝えしたく。

●市長

ありがとうございます。申し訳ないです。もうね、それは入れるべきですよ。すみません、はい、すぐ話します。

○参加者 24

ぜひお願いします。

●市長

あのあまり言うとな勝手に僕一人で決めると怒られますけど、もうこれは入れないとだめですよ。

○参加者 24

地域支援課の方にはとてもよく話を聞いていただきましたが、やっぱりちょっと一存では決められないみたいな話だったり、学び推進課の方は「話してみようかな」くらいの感じではお話を聞いてくださったんですけど

●市長

あの、これはもう、あまり言っちゃあれですけど、結局、塾とかで使っている皆さんがたまにいらっしゃったりするので、そういうところとのあれですけど、でももう団体としてフリースクールとして整備をちゃんとどういう条件付けをするかですから、そこはもう、はい、やりたいと思います。すみません、ほんとに御迷惑をおかけしました。

○参加者 24

やってることは教育活動なので、減免していただきたいと思います。市長よろしくお願いいたします。

○参加者 25

ありがとうございます。筑波大学3年の参加者25と言います。手短かに話すと僕色々アプリを作っていて、つくばに対して何か作れないかなと考えた場合、結構イベントが、駅前とかであったりとか、公民館とかでたくさん開催されてるな

とっていて、多分それを知るツールがなかなか無いってということで、僕自身そのイベント管理ツールみたいなのを作って、それを是非、つくスマなどで出していただきたいなというふうに思っていて。今年からいろんな人に使ってもらうためにリリースしようと思っていて、もしかしてご存知かもしれないんですけど、柏市に「かわらの葉」っていう、自治体とかが開催しているイベントとかを管理するアプリっていうのがあって、是非それをつくばでもできないかなって僕作っていて、もし何か今後そういうイベントに関するアプリであったりとか、そういうのをリリースされる予定ってあるのかなっていうのを聞いてみたいと思います。

●市長

「dokoiko（どこいこ）」は知ってますか。

○参加者 25

「どこいこ」聞いたことがあります。

●市長

筑波大生が、まさにイベントを網羅するような形でアプリを作っていて、それを市でも実は応援をされていて、これからいろいろそこと連携してやっていこうかって話に今なって、ただ、ちょっとガチのコンペティターになっちゃうかなそうすると。

○参加者 25

そうですね、まあ筑波大学なので一緒にもしあれだったら

●市長

そうだね、ちょっと「どこいこ」で調べてもらおうと、かなり、都内のイベントとかでも使われたりしていたりするので、つくば市もそれを導入ができるというなどは思っているんですけど、コスト面とかそういうことも含めて、まだ調整中なんですけど。ちょっと、「どこいこ」とか見てもらえると良いかもしれないです。

○参加者 25

分かりました。ありがとうございます。

○参加者 3

自治会のアプリというのが、つくば市からはリリースされていないですけど、声掛けが各自治会にあって、自治会アプリというのをテスト段階みたいなんですけれども、これはいつどのような形でリリースだったりロードマップだったりというのがあったりするのでしょうか。

●市長

今いくつか使っていただいて、そこで検証をしてっていうので、これはみどりの区会の方が素晴らしい力を発揮してやっけていただいていますので、どちらかというとその方に我々もおんぶにだっこになっちゃってる状況なので、どれくらいの頃に正式版をリリースできるかというのは、ちょっと聞いてみますね。でも本当にすごくいいものですので、区長さんのお仕事とか特に効率化できると思いますので、ちょっとあとで確認してみます。

○参加者 3

ありがとうございます。